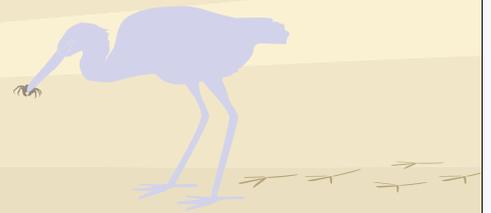


# なぎさ NEWS



## 海の中にひろがるミクロの世界

昨年(こぞ)の11月、海で浮いて漂(ただよ)うくらしをする「プランクトン」をテーマとしたプログラムを行いました。そのプログラムで活用(おき)するため、千葉県浦安市、東京ディズニーランド沖の海でプランクトンネットを使った採集(とく)を何回か行いました。

採集したなかで一番多く観察されたのは、長い触角(しよつかく)が特徴(とくちゆうてき)的な動物プランクトンのカイアシ類(かいあしるい)でした。また、跳ねるように動くフジツボ類(ふじつぼるい)の幼生(ようせい)や、滑(すべ)るように動くゴカイ類(ごかいるい)の幼生(ようせい)も観察(くわんさつ)されました。流れ(なれ)に逆(さか)らえるほどの泳(およ)ぐ力(ちから)はないものの、それぞれに特徴(とくちゆうてき)的な動き(うごき)がありました。さらに顕微鏡(けんめいきやう)の倍率(ばいそつ)をあげると見えるのは植物プランクトン(しょくぶつぷらんくんとん)です。ブロック(ぼろく)を積み重ね(かさね)たような、美しい幾何学(きがかく)的な模様(もよう)の珪藻類(けいそうるい)などが、画面(えん)いっぱい(いっぴい)に無数(むすう)に見え(み)ました。

採集(とく)したプランクトン(ぷらんくんとん)は、プログラム(ぷろぐらむ)の中で子どもたち(こどもたち)と一緒に(いっしょ)に観察(くわんさつ)しました。プレパラート(ぷれぱらーと)に垂(た)らした一滴(いってき)の水(みづ)の中にこれだけのプランクトン(ぷらんくんとん)を観察(くわんさつ)でき、身近(みぢな)な海(うみ)にこんなにも多様(たさむ)でたくさん(たか)さんのプランクトン(ぷらんくんとん)がいて(い)ることに、みんな(みんな)驚(おどろ)いて(い)ました。(こくう普及(ふく)係(けい) 西村(にしむら) 大樹(たいじゆ))



上) 珪藻類 下) ゴカイ類の幼生

## エドハゼはありふれた魚？



エドハゼ

エドハゼは、一年(いちねん)をと(と)おして「西(にし)なぎさ」で観察(くわんさつ)される全長(ぜんちやう)5cm(ごせん)ほどの小型(せうがた)のハゼ(はぜ)です。特に春(はる)の地曳網(ぢびきあみ)調査(ていさ)では全長(ぜんちやう)1~2cm(いちにふたせん)ほどの稚魚(ちいさなうし)がバケツ(ばけつ)いっぱい(いっぴい)に採集(とく)されることもあ(あ)ります。東京(とうきやう)(江戸(えど))で採集(とく)された標本(ひょうぽん)をもとに新種(しんしゆ)記載(きざい)されたため、エドハゼ(えどはぜ)という名前(な)がつけ(つけ)られました。成魚(せいぎよ)はアナジャコ(あなじゃこ)など他(ほか)の生き物(いきもの)がつくった巣穴(すあな)を隠れ家(かくが)に利用(りよう)したり、産卵(さんらん)に使う(つかう)ことが知ら(し)られています。「西(にし)なぎさ」でも、しおだまり(しおだまり)をのぞくと、小さな穴(あな)から顔(かほ)を出(で)しているエドハゼ(えどはぜ)を見(み)つけることがで(こ)きます。

「西(にし)なぎさ」ではふつう(ふつう)に観察(くわんさつ)できるエドハゼ(えどはぜ)ですが、じつは環境(かんげい)省(しょう)のレッドリスト(れどどリスト)によ(よ)って絶滅(ぜつめつ)危(き)惧(きん)種(しゆ)に指定(しゆ)されています。埋め立(うめだて)てなど(など)によ(よ)って、すみか(すみか)である干潟(かんせつ)が全国的(こくさいてき)に減(へ)っていることが、生息数(せいそくすう)を減(へ)らす一因(いちいん)とされ(さ)れています。東京湾(とうきやうわん)の干潟(かんせつ)が少(すく)なくな(な)っているなか、「西(にし)なぎさ」は人工(じんこう)ではあ(あ)りますが、干潟(かんせつ)で生活(せいかつ)する生き物(いきもの)にと(と)って重要(かんきやう)な環境(かんげい)とな(な)っています。(ていさ係(けい) 市川(いちがわ) 啓(けい)介(けい))

## なぎさ 生き物ミニ情報

水族園(すいぞうえん)は「西(にし)なぎさ」と「東(とう)なぎさ」で、さまざま(さまざま)な調査(ていさ)を行(い)っています。今回(こんかい)は、2016(にじゅういち)年の12月(じゅうにがつ)に行(い)った「西(にし)なぎさ」での地曳網(ぢびきあみ)調査(ていさ)と生き物(いきもの)調査(ていさ)の結果(けいこ)を報(は)告(こく)します。

**12月地曳網調査:** 水温(すいおん)15.1℃、気温(きおん)13.8℃。周年(しゅうねん)、「西(にし)なぎさ」で見(み)られるエドハゼ(えどはぜ)やアシシロハゼ(あししろはぜ)などが採集(とく)されました。10月(じゅうがつ)までの調査(ていさ)と比(ひ)べると、採集(とく)される生き物(いきもの)の種(しゆ)類(るい)・数(すう)とも(とも)に少(すく)なくなり、秋(あき)から冬(ふゆ)への変(へん)化(か)がみ(み)られました。

**12月生き物調査:** 水温(すいおん)12.6℃、気温(きおん)10.1℃。冬(ふゆ)になり、スズガモ(すずがも)やハジロカイツブリ(はじろかいつぶり)などの渡(わた)り鳥(とり)が増(あ)えてき(き)ました。しおだまり(しおだまり)では、前(ま)回の調査(ていさ)までよく見(み)られていたエビジャコ(えびじゃこ)の姿(すがた)がな(な)く、かわ(かわ)りにシラタエビ(しらたえび)が数(すう)多(た)く見(み)つかりました。